

日本血液学会 2019 年度事業報告

研究支援事業 学術集会の開催

第 80 回日本血液学会学術集会 プログラム概要

会 期：平成 30 (2018) 年 10 月 12 日 (金) ～14 日 (日)

会 場：大阪国際会議場

会 長：松村 到 (近畿大学医学部 血液・膠原病内科)

テーマ：Progress of the Japanese Society of Hematology

参加者数：6,930 名 (海外 352 名)

プログラム：

会長講演 1 題

特別講演 3 題 (Special Lecture、ASH Special Lecture、EHA Special Lecture)

JSH 学会賞受賞講演 3 題

教育講演 69 演題 (うち 32 演題を再演)

シンポジウム 11 テーマ (52 題) (Presidential Symposium、JSH-ASH Joint Symposium、
JSH-EHA Joint Symposium、ISCT Joint Symposium を含む)

Asian Joint Panel Discussion 1 テーマ (7 題)

Plenary Session 6 題

一般口演 594 題 (内 2 題、演題取り下げ)

一般ポスター716 題 (内 39 題、演題取り下げ)

SETP (Scientific Exchange Training Program) 4 テーマ (8 題)

コーポレートセミナー ランチョンセミナー：41 セミナー (49 題)

モーニングセミナー：26 セミナー (27 題)

Industry Session 3 セミナー (3 題)

公開シンポジウム

国 際

・第 10 回国際シンポジウム (The 10th JSH International Symposium in Kyoto)

会 長 片山直之

日 時 2019 年 5 月 17 日 (金) ～5 月 18 日 (土)

会 場 鳥羽国際ホテル (三重県鳥羽市)

テーマ Connecting hematopoiesis, oncogenesis, and immunity

・第 80 回日本血液学会学術集会における ASH および EHA Special Lecture/ASH-JSH Joint Symposium/ EHA-JSH Joint Symposium/ISCT Joint Symposium/Asian Joint Session

ASH Special Lecture

Alexis A Thompson “Advances in gene therapy for nonmalignant blood disorders”

ASH-JSH Joint Symposium <Recent advances in bone marrow failure>

Danielle Townsley, Kohei Hosokawa, Hideki Matsumura, Akiko Shimamura

EHA Special Lecture

Pieter Sonneveld “Recent therapeutic algorithms in multiple myeloma”

EHA-JSH Joint Symposium < Path to TFR: Role of immune system in CML>

Ingo Roeder, Hiroyoshi Nishikawa, Jun Imagawa, Satu Mustjoki

ISCT Joint Symposium <New direction of tumor immunotherapy>

Hiroaki Ikeda, David Gottlieb, Yoso Nakazawa, Catherine M. Bollard

Asian Joint Panel Discussion <B-cell malignancy including multiple myeloma>

Sumeet Gujral(India), Shang-Ju Wu(Taiwan), Wonseog Kim(Korea), Jin Lu(China), Michelle Limei Poon(Singapore), Lalita Norasetthada(Thailand), Dai Maruyama(Japan)

• **24th EHA Congress(Amsterdam)における EHA-JSH Joint Symposium**
<Cell based therapeutic on the move>

Willem Fibbe “Mesenchymal stromal cells in biological and clinical perspective”

Naoki Hosen “The activated conformation of integrin beta7 is a novel multiple myeloma - Specific target for CAR T cell therapy”

• **2019 Highlights of ASH in Asia-Pacific 派遣**

原田 介斗	東海大学医学部血液・腫瘍内科学
河村 浩二	自治医科大学附属さいたま医療センター
立花 崇孝	神奈川県立がんセンター
中村 文美	獨協医科大学内科学 (血液・腫瘍)
垣内 誠司	淀川キリスト教病院

• **若手研究者への 24th EHA Congress Travel Award 支援 (各 20 万円)**

Kazuya Hashimoto “Heterogeneity in epigenetically regulated LIN28A-Let-7a-5p-ROS axis leads to heterogeneity in megakaryocyte maturation”

Hiroki Mizumaki “The identification of a common loss-of-function mutation across different HLA class alleles frequently detected in patients with acquired aplastic anemia”

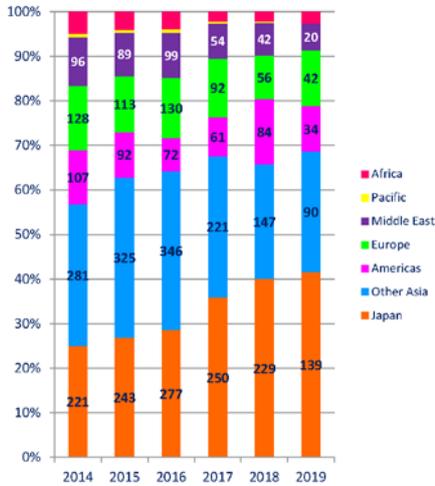
Shoichiro Kato “SLAMF7 high CD16 negative monocytes increase in peripheral blood of patients with myelofibrosis in correlation with JAK2V617F mutation”

Yusuke Kiyoki “Targeting T-cell receptor signaling pathway by dasatinib in relapsed/refractory angioimmunoblastic T-cell lymphoma”

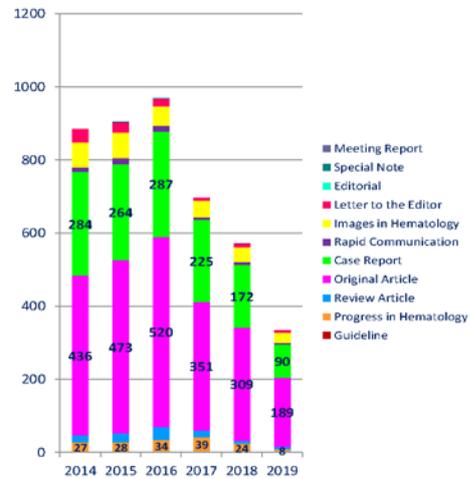
• **EHA-JSH Collaborative Exchange Program 2018 (1名に 100 万円)**

JSH、EHA ともに受賞者なし

《地域別投稿数》

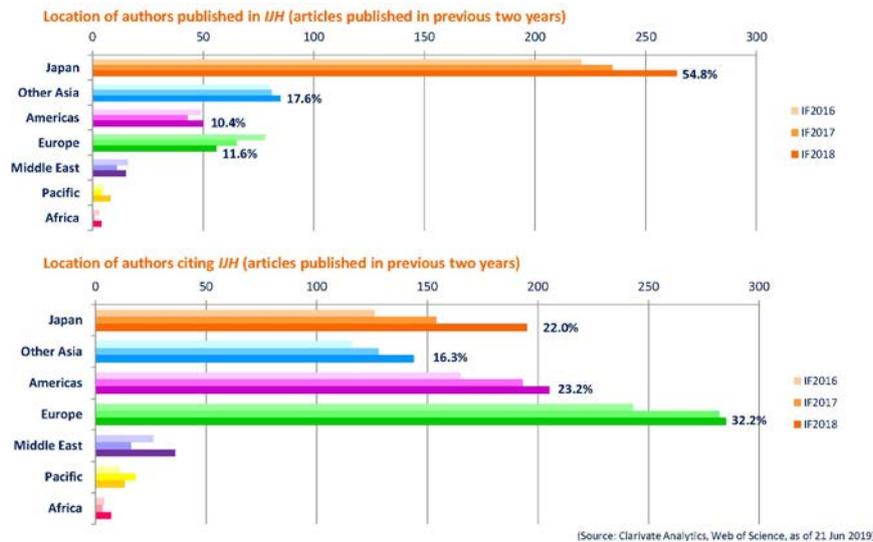


《論文種別投稿数》



投稿数：2015年904件,2016年970件,2017年697件,2018年572件,2019年334件 (6/30現在)

《2016-2018年に出版された IJH の地域別引用状況 (2018)》



《Impact Factor》

$$\frac{\text{Cites in 2018 to articles published in: 2016} = 420 + 2017 = 415}{\text{Number of articles published in: 2016} = 173 + 2017 = 198} = 2.251$$



(Source: Clarivate Analytics, Journal Citation Report, as of 21 Jun 2019)

「臨床血液」誌 《2019.9.2 現在》

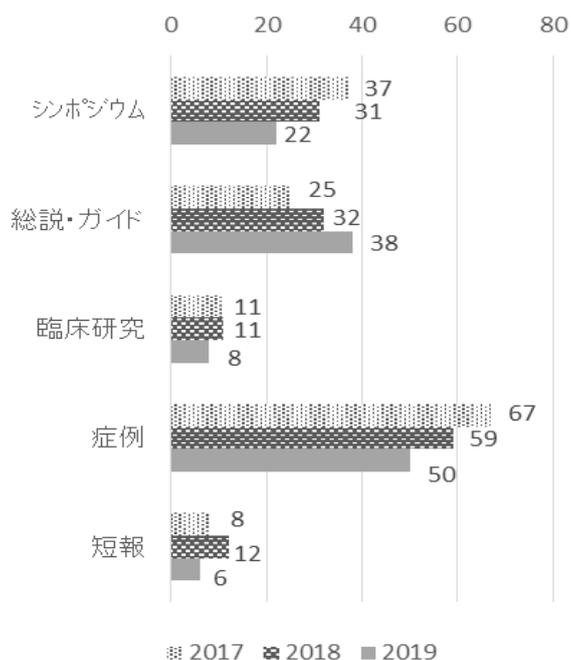
2018年発刊状況

巻/号	頁数	シホ°	総説	臨研	症例	短報	計
59-1	134	0	2	2	8	0	12
59-2	132	0	4	3	5	2	14
59-3	98	0	0	0	9	2	11
59-4	108	0	3	2	7	0	12
59-5	194	4	9	0	3	2	18
59-6	176	4	11	1	3	2	21
59-7	145	8	1	2	5	1	17
59-8	146	11	1	0	4	1	17
59-9	726	第80回学術集会 プログラム・抄録号					0
59-10	535	第80回学術集会 教育講演号 (65本)					65
59-11	156	4	1	1	6	1	13
59-12	121	0	0	0	9	1	10
計	2,671	31	32	11	59	12	210

2019年発刊状況

巻/号	頁数	シホ°	総説	臨研	症例	短報	計
60-1	83	0	0	1	9	0	10
60-2	68	0	0	1	6	3	10
60-3	115	0	16	3	6	0	25
60-4	94	0	1	0	9	0	10
60-5	193	3	9	1	5	1	19
60-6	195	4	11	0	4	0	19
60-7	122	7	0	1	6	1	15
60-8	137	0	1	1	5	1	8
60-9	395	第81回学術集会 教育講演号 (49本)					49
60-10							0
60-11							0
60-12							0
計	1402	14	38	8	50	6	116

カテゴリー別掲載状況



◆採用日数平均◆

56巻	86.4日
57巻	80.5日
58巻	85.6日
59巻	86.3日

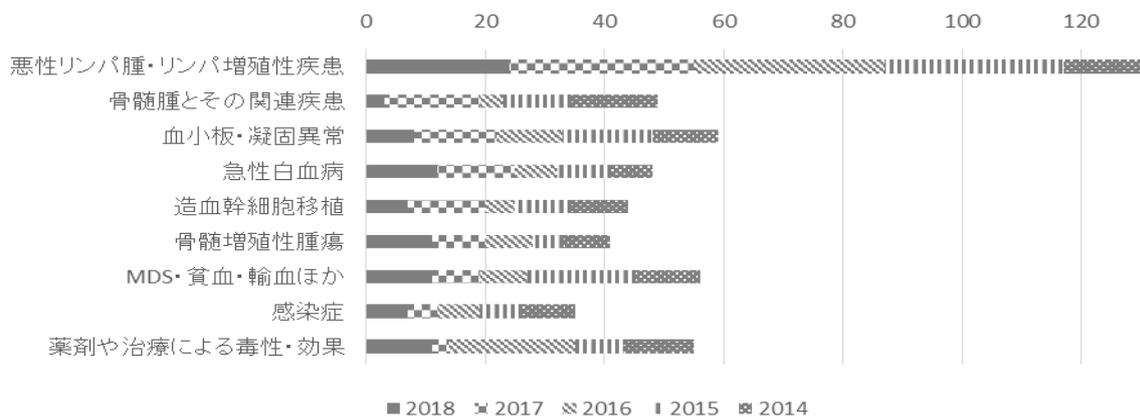
◆年度別採用率◆

	投稿数	採用数	採用率
2016年	104	92	88.5%
2017年	118	86	72.8%
2018年	101	88	87.1%

《連載コーナー》

- ・Picture in Clinical Hematology
- ・Introduce My Article
- ・Take Me Out to the Congress Abroad
- ・りんけつクイズ ・Rinketsu Dictionary

領域別論文投稿数



J-STAGE 海外アクセス数

2018年					2019年																
9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月											
日本	23273	中国	36882	中国	47325	中国	49858	USA	35522	日本	28881	日本	23833	日本	23034	USA	36441	日本	36662	USA	45256
中国	6963	日本	32215	日本	19279	USA	20584	日本	30461	ロシア	12820	ロシア	17056	USA	11090	日本	24888	USA	34936	日本	27819
USA	4253	USA	6364	USA	13574	日本	19506	中国	5787	USA	4554	USA	11199	ロシア	6863	中国	3354	中国	13224	フランス	3217
オランダ	642	オランダ	770	ドイツ	1597	ロシア	1510	ロシア	3913	ドイツ	4069	ドイツ	3666	中国	2599	ロシア	1463	ロシア	1814	中国	2776
ロシア	413	ロシア	717	オランダ	732	オランダ	616	ドイツ	1042	ドイツ	2804	中国	2890	ドイツ	1598	オランダ	560	フランス	1289	ドイツ	1494
トルコ	350	トルコ	509	ロシア	590	ルーマニア	414	ドイツ	939	中国	1681	イギリス	853	イギリス	630	ドイツ	400	オランダ	550	ロシア	1418
インド	254	ドイツ	476	韓国	456	カナダ	393	オランダ	446	ドイツ	746	ドイツ	446	オランダ	364	ドイツ	352	ドイツ	428	オランダ	578
ドイツ	198	イギリス	291	トルコ	434	ドイツ	315	ドイツ	273	カナダ	555	オランダ	410	ドイツ	220	イギリス	301	イギリス	321	イギリス	342
イタリヤ	194	インド	281	イギリス	398	イギリス	273	インド	223	オランダ	365	ドイツ	312	ドイツ	211	韓国	277	ドイツ	280	韓国	342
イギリス	184	イタリヤ	253	イタリヤ	252	ドイツ	262	イギリス	213	ブラジル	305	インド	281	ブラジル	202	ブラジル	250	韓国	262	ドイツ	292
ブラジル	182	ブラジル	232	インド	251	韓国	222	フランス	205	イギリス	296	トルコ	233	インド	172	イタリヤ	240	ブラジル	203	インド	270
オーストラリア	148	スペイン	230	スペイン	222	インド	216	スペイン	197	韓国	260	ドイツ	193	フランス	156	インド	232	イタリヤ	189	ブラジル	226
台湾	147	フランス	227	台湾	221	トルコ	197	イタリヤ	194	ドイツ	258	イタリヤ	187	スペイン	143	フランス	220	インド	186	イタリヤ	196
シンガポール	143	台湾	227	ブラジル	213	フランス	150	シンガポール	146	インド	249	スペイン	185	韓国	122	スペイン	168	シンガポール	143	シンガポール	194
ドイツ	137	ドイツ	185	フランス	169	ドイツ	146	台湾	120	フランス	190	ブラジル	180	オーストラリア	120	ドイツ	165	スペイン	133	スペイン	153
フランス	132	カナダ	175	メキシコ	152	イタリヤ	140	トルコ	118	イタリヤ	183	フランス	172	メキシコ	115	オーストラリア	125	カナダ	125	カナダ	151
メキシコ	130	韓国	173	ドイツ	138	スペイン	137	ブラジル	116	トルコ	176	韓国	156	イタリヤ	111	トルコ	119	メキシコ	122	メキシコ	148
カナダ	115	シンガポール	160	シンガポール	102	台湾	124	メキシコ	107	ベルギー	162	台湾	142	オーストラリア	97	シンガポール	114	オーストラリア	117	ドイツ	139
スペイン	99	オーストラリア	138	カナダ	97	南アフリカ共和国	123	韓国	103	スペイン	143	シンガポール	121	カナダ	96	カナダ	100	トルコ	93	オーストラリア	134
韓国	91	メキシコ	133	イラン	83	ブラジル	94	カナダ	95	シンガポール	116	カナダ	104	トルコ	96	台湾	92	台湾	83	トルコ	131

<TOP10 査読者 2019> (敬称略) ※延べ査読数による

1	磯部 泰司	10	正木 康史
1	森 毅彦	10	福原 規子
3	田村 秀人	10	松本 雅則
3	内田 直之	10	田中 淳司
3	西田 徹也	10	原田 浩徳
6	池田 和彦	10	家子 正裕
7	鈴木 律朗	10	佐々木 純
7	石澤 賢一	10	長谷川 大輔
7	猪口 孝一	10	臼杵 憲祐

論文アクセス数ランキング (2018年9月～2019年7月)

筆頭著者	論文名		アクセス数
藤村 欣吾	成人特発性血小板減少性紫斑病治療の参照ガイド 2012年版	53巻	7,677
内田 立身	鉄欠乏性貧血における氷食症	55巻	3,041
松本 雅則	血栓性血小板減少性紫斑病 (TTP) 診療ガイド2017	58巻	2,614
長尾 忠美	腫瘍形成性白血病の治療に関する臨床的研究	16巻	2,593
川戸 正文	急性白血病の感染症の実態とその特殊性	15巻	2,487
安間 秋靖	Melphalan治療により胃癌摘除可能であった多発性骨髄腫の1例	14巻	2,309
川島 康平	急性白血病の長期生存例	26巻	2,132
喜多島 康一	慢性骨髄性白血病急性転化の早期診断 早期治療に関する臨床的研究	13巻	1,761
吉崎 和幸	キャスルマン病診療の参照ガイド	58巻	1,748
宮脇 修一	急性骨髄性白血病 (AML) 191例の臨床経過とWT1 mRNAの発現量-全国23施設による共同研究-	46巻	1,651

論文PDFダウンロード数ランキング (2018年9月～2019年7月)

筆頭著者	論文名		DL数
藤村 欣吾	成人特発性血小板減少性紫斑病治療の参照ガイド 2012年版	53巻	15,365
宮川 義隆	妊娠合併特発性血小板減少性紫斑病診療の参照ガイド	55巻	5,965
吉崎 和幸	キャスルマン病診療の参照ガイド	58巻	2,030
薄井 紀子	リンパ性白血病 (急性・慢性)	53巻	758
丸山 大	DLBCL/HGBCLの診断と治療戦略	59巻	270
島田 恒幸	発症後に潰瘍性大腸炎を併発した再生不良性貧血	53巻	264
早瀬 英子	完全奏効後、早期に中枢神経系に再発した腫瘍原リンパ腫	53巻	216
松本 雅則	血栓性血小板減少性紫斑病 (TTP) 診療ガイド2017	58巻	209
柏木 浩和	特発性血小板減少性紫斑病	53巻	208
木下 朝博	悪性リンパ腫 (ホジキンリンパ腫・非ホジキンリンパ腫)	53巻	203

診 療

1. 要望書の提出

1) 日本医学会「薬理作用に基づく医薬品の適応外使用事例」受付係を通して厚労省へ提出

- ・ベンダムスチン投与時の帯状疱疹の発症抑制を目的としたアシクロビルの保険償還
- ・カルフィルゾミブやイクキサゾミブ投与時の帯状疱疹の発症予防を目的としたアシクロビルの保険償還

2) 厚生労働省

- ・新規アゾール系抗真菌薬の早期承認に対する要望書を提出。
(日本化学療法学会／日本医真菌学会／日本血液学会)
- ・急性骨髄性白血病に対するベネトクラクスの早期承認を求める要望書を提出。
- ・製造メーカーによる出荷保留に伴うメソトレキセート®点滴静注液(メトトレキサート)の薬剤確保に関する要望を提出。
- ・製造メーカーによる出荷保留に伴うイダマイシン®静注用(イダルビシン)の緊急確保に関する要望を提出。
- ・再生不良性貧血に対するプリモボランが不採算薬品であるため、製造の継続が困難になっており、同剤の安定供給について要望書を提出。
- ・急性骨髄性白血病に対するサンラビンが不採算薬品であるため、製造の継続が困難になっており、同剤の安定供給について要望書を提出するかどうかについて審議を行った。

3) その他

- ・ATGAM(2016年9月に要望書を提出)
医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議」にて医療上の必要性が高いと判断され、ファイザー社から開発計画を厚労省に提出予定。
- ・「T-PLLに対するアレムツズマブの適応拡大」に関する日本リンパ網内系学会との共同提出について検討し、承認した。
- ・TAFRO症候群に対するリツキシマブ投与の保険適用の(日本医師会宛)要望書

2. 供給停止予定品目(日本医師会・疑義解釈委員会)についての確認

- ・IgDの検査試薬(栄研化学)の供給停止について(2018年9月の供給停止品目)
IgD骨髄腫などの診断、治療に必須であり、供給停止に反対する意見を提出した。
後日に栄研化学と話し合い、新規の検査試薬の作成や継続的に供給するシステムの検討を依頼した。

3. 使用実態調査

- ・厚生労働省の未承認薬検討会議からの依頼に対応し、齋藤健先生、藤田浩之先生が中心となり、小児及び成人の再発又は難治性の急性骨髄性白血病(AML)に対するFLAGを中心としたフルダラビン、G-CSFの両者を含む化学療法の使用実態調査を開始予定。

4. DPC検討WG委員会(中医協 診療調査専門組織)

神田善伸(班長)

藤田浩之(白血病領域)、鈴木隆浩(骨髄異形成症候群・骨髄増殖性腫瘍領域)

伊豆津宏二(リンパ腫領域)、竹迫直樹(骨髄腫領域)、宮川義隆(血栓・止血領域)

厚生労働省からのDPC見直し(ツリー構造)依頼について検討し、以下の見直しについて調査票を提出した。

- ・非ホジキンリンパ腫に対してリツキシマブを使用した場合の診断群分類（130030xx99x40x）を想定される入院日数に応じて2群に分ける
- ・「慢性白血病、骨髄増殖性疾患」について、リンパ系腫瘍（C911 CLL, C913 PLL, C914 ・HCL, C916 T-PLL）は、「非ホジキンリンパ腫」に含めるか、別に分類し、残りについて名称を「骨髄増殖性腫瘍、骨髄異形成症候群/骨髄増殖性腫瘍」に変更
- ・「マクログロブリン血症」を「非ホジキンリンパ腫」に含める。
- ・「その他の凝固障害（D68\$）」と、出血性疾患（その他）「その他の明示された出血性病態（D698）」と「出血性病態、詳細不明（D699）」の統合を検討
- ・「再生不良性貧血」の手術・処置等2にエルトロンボパグを追加
- ・「慢性白血病、骨髄増殖性疾患」の手術・処置等2にルキソリチニブを追加
- ・「急性白血病」の手術・処置等2にポナチニブを追加
- ・「慢性白血病」の手術・処置等2にポナチニブを追加
- ・「骨髄増殖性疾患」を「骨髄増殖性腫瘍」に変更
- ・「抗リンパ球グロブリン」を「抗胸腺細胞グロブリン」に変更
- ・「播種性血管内凝固症候群（脱線維素症候群）」を、「播種性血管内凝固症候群」に修正

5. 2020年度診療報酬改訂提案

1) 第一次提案書

- ・評議員へ提案募集メール配信、提案内容を診療委員会にて審議。
- ・日本血液学会-第一次提案書を内保連へ提出（2018年12月10日締切）
医療技術>未収載 3件、医薬品再評価 9件

2) 内保連血液関連委員会（9学会）開催（2019年2月27日）

3) 2020年度診療報酬改定提案書提出（2019年4月22日締切）

4) 今後のスケジュール

- ・内保連ヒアリング（2019年5月22日10時から）
- ・内保連から厚労省に提案書提出（2019年6月5日）

6. ガイドライン等査読

- 1) 「臨床血液」誌掲載予定「成人特発性血小板減少性紫斑病治療の参照ガイド 2019改訂版」について査読し、委員の意見をとりまとめの上、「臨床血液」編集部に提出した
- 2) 厚労省 アミロイドーシスに関する調査研究班からの「全身性アミロイドーシスの診断基準」に対する意見依頼について、委員の意見をとりまとめの上、調査研究班に回答した。

造血器腫瘍ガイドライン

1. 造血器腫瘍診療ガイドライン第二版の小改訂

改訂項目は以下に限定する。

- ① 保険適用の新規認可・追加などによる記載の変更（事務局から委員に直接改訂を依頼することがある）
 - ② アルゴリズムを変えるような大きなエビデンスが出た場合の反映
- なお、今回の小改訂は、web版のみで公開する。

2. 日本医療機能評価機構EBM普及推進事業「Minds（マインズ）」から、第二版のリンク掲載の依頼があった。許可する方針としている。

重篤副作用ガイドライン委員会

- ・厚生労働省が医薬品の使用により発生する副作用疾患に着目した対策整備として、平成17年～平成22年の間に整備した「重篤副作用疾患別対応マニュアル」の血液領域の9項目の改訂と免疫チェックポイント阻害剤に関する事項の新規作成依頼があり委員会を設立。
- ・免疫チェックポイント阻害剤に関する事項について記載し提出。
- ・現マニュアルの関係9領域の内容確認および改定作業を進行中。

ゲノム医療

造血器腫瘍ゲノム検査ガイドラインの改訂

昨年度策定した、造血器腫瘍ゲノム検査ガイドライン v1. のについて定例(年1回)の改定を行った。改定の主な内容は

- V1. の修正・追加・アップデート、および
- 保険適応の基準となる、より実臨床に則した、パネル検査の対象と時期に関する指針の策定（おおまかな疾患別、病期別（初診時、再発時）ごとに「診断」「治療」「予後」の観点から、3段階のエビデンスレベルを、具体例を示しながら提示。）

10月1日を目処にオンラインガイドライン変更の予定。

研究助成

目的：血液学における基礎・臨床の研究（血液疾患患者の利益となる研究）を進展させることを目的として当学会が実施する研究支援事業。

ピアレビュー（血液学分野の複数の研究者による審査）により、血液学の発展に貢献する研究に対し助成を行う。

研究助成総額：103,000,000円

助成件数：約100件

助成金額：1件当たり20万円～200万円

対象：血液学の臨床的・基礎的研究を対象とします。なお、薬剤を用いた介入研究は、対象外とします。

応募資格：日本血液学会会員で、上記の研究が可能な施設に所属する医師及び研究者（研究グループを除く）各講座(又は診療科)単位で申請できるのは、1課題とします。

申請期間：2019年6月3日（月）～6月17日（月）

審査：審査委員並びに研究助成部会委員にて審査を行った。

協賛：セルジーン（株）、ノバルティス ファーマ（株）、
ブリistol・マイヤーズ スクイズ（株）（アイウエオ順）

応募・採択状況

	2018年	2019年
申請数	156件 基礎領域 49件 臨床領域 107件	155件 基礎領域 47件 臨床領域 108件
採択数	137件 基礎領域 39件 臨床領域 98件	117件 基礎領域 32件 臨床領域 85件

1. CML 研究

1) 新 TARGET

観察研究 1

「日本国内における初発未治療の慢性期慢性骨髄性白血病患者を対象とした観察研究」

登録症例数：506 例（予定登録数 500 例）（達成率 101.2%）

主要評価項目：CML 確定診断日から 5 年時点における全生存率 (OS)

観察研究 2

「日本国内における 2nd または 3rd line イマチニブ既治療慢性期慢性骨髄性白血病患者
を対象とした観察研究」

登録症例数：98 例（予定登録数 110 例）（達成率 89.1%）

主要評価項目：2nd line 以降の薬剤投与開始日から 3 年時点における全生存率 (OS)

観察研究 1 の論文化

Kizaki M, Takahashi N, Iriyama N, et al. Efficacy and safety of tyrosine kinase inhibitors for newly diagnosed chronic-phase chronic myeloid leukemia over a 5-year period: results from the Japanese registry obtained by the New TARGET system.

Int J Hematol. 2019 Apr;109(4):426-439. doi: 10.1007/s12185-019-02613-1.

準備中の論文

実行委員会

1. 付加的染色体異常と予後
2. 点突然変異解析・INS35 の予後
3. ダサチニブ PK と胸水などの副作用・治療効果
4. ニロチニブ PK と肝障害などの副作用・治療効果

データの二次利用の募集

5. 合併症を有する患者、高齢者の予後 小野 孝一先生（浜松医大）

観察研究 2 の論文化

慶應大学で執筆中

2) JSH-J-SKI 研究

「慢性骨髄性白血病患者に対するチロシンキナーゼ阻害薬中止後の無治療寛解維持を検討する日本国内多施設共同観察研究」

すでに TKI を中止したまたは中止予定である CML 患者の臨床情報を収集し、TKI 中止後の無治療寛解に関する長期予後
を調べる観察研究。

本研究で得られた情報を学会員に提供し、日本の CML 治療レベルを向上させ、将来的には安全に TKI を中止できる基準
を示したガイドラインの改定を目指す。

付随研究、1) 免疫細胞のプロファイル、2) 次世代ゲノムシーケンスによる残存病変の変異解析、3) TFR に関わる QOL の
変化、4) 骨髄間葉系幹細胞の遺伝子発現解析など

目標症例数と研究期間

- a) 予定登録症例数：1200 例（新規 TKI 中止患者 600 例+過去の TKI 中止患者 600 例）
- b) 予定登録期間：倫理審査委員会承認日から 2024 年 3 月 31 日（5 年間）
- c) 研究期間：倫理審査委員会承認日から 2029 年 9 月 30 日（10 年間）

CML TFR 研究実行委員会

委員長：高橋 直人（秋田大学医学部 血液腎臓膠原病内科）

副委員長：木村 晋也（佐賀大学医学部 血液・呼吸器・腫瘍内科）

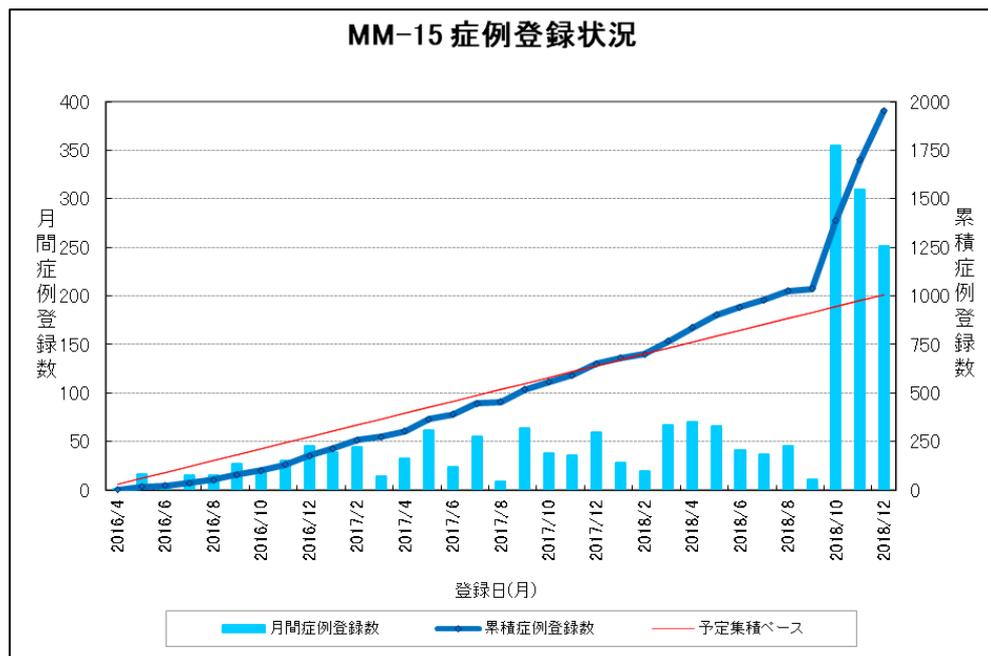
2. 多発性骨髄腫研究

MM 研究実行委員会 委員長 飯田真介

1) 「日本における骨髄腫関連疾患の予後に関する大規模多施設前向き観察研究 (JSH-MM-15)」

2019 年 8 月 15 日のモニタリングレポートより

登録期間：2016年4月28日～2018年12月31日



IRB 承認施設数：77 施設

患者登録施設数：49 施設

全登録数：1,952 例 (予定登録数：1,100 例)

中止患者数：188 例

追跡終了予定：2021年12月31日

今後の予定：背景因子データを収集固定して、2020年のJSHにて公表

2) 次期 MM 前方視的観察研究について

企業支援による研究事業を見込み、研究計画書(英文)の申請を検討中

MM-15 同様の研究内容で追跡期間を5年間とする

可能な施設でのみ、治療前の末梢血検体を収集(ctDNA, cfDNA 解析を予定)

2020年9月登録開始を目標とする

3. 骨髄増殖性腫瘍研究

MPN 研究実行委員会 委員長竹中 克斗

1) 「日本における骨髄増殖性腫瘍の予後に関する大規模多施設前向き観察研究 (JSH-MPN-15)」

目的：わが国における骨髄増殖性腫瘍のうち真性多血症、本態性血小板血症、原発性骨髄線維症の生存率、イベント発生率、およびその発生に影響を及ぼすリスク因子、治療実態について調査をすること。

デザイン：多施設共同前向きコホート研究対象：

WHO 分類 2017 の診断基準に基づいて新たに MPN (PV、ET、prePMF、PMF) と診断された患者

目標症例：1,500 例 (ET 900 例、PV 500 例、prePMF/PMF 100 例)

主要評価項目：全生存率

検体保存：ゲノム DNA の保存

登録期間：5 年 (2016 年 4 月～2021 年 3 月)

観察期間：10 年

研究代表者：順天堂大学 医学研究科 血液内科 小松 則夫

進捗状況 (2019 年 8 月 ¥時点)：

倫理委員会承認施設：53 施設

登録症例数：310 例

2) 「日本における真性多血症および本態性血小板血症患者の臨床像、生命予後およびイベントリスクに関する多施設後方視的研究(JSH-MPN-R18)」

目的：わが国における骨髄増殖性腫瘍のうち真性多血症、本態性血小板血症患者の臨床像、実臨床で治療実態を把握し、生存率、イベント発生率、およびその発症に影響を及ぼしたと考えられるリスク因子を調査すること。

デザイン：多施設共同後ろ向き観察研究

対象：WHO 分類 2008 もしくは WHO 分類 2017 の診断基準をみたした PV および ET 患者目標症例：PV 1,500 例、ET 1,500 例

主要評価項目：全生存率

研究期間：倫理委員会承認～2020 年 9 月 30 日

研究代表者：順天堂大学 医学研究科 血液内科 小松 則夫

倫理委員会承認施設： 20 施設

登録症例数： 795 例

4. 血液疾患登録事業

2018 年 1 月 1 日～2018 年 12 月 31 日に新たに診断された症例について、2019 年 5 月 31 日までに疾患登録報告されたものを対象

第 81 回の日本血液学会学術集会にてパネル展示予定

2018 年診断例 団体別施設登録数及び登録数

団体名	施設数 *			登録数
	合計	登録あり	登録なし	
日本血液学会 (JSH)	552	400	152	40586
日本小児血液・がん学会 (JSPHO)	241	137	104	1931
国立病院機構 (NHO)	21	21	0	2347
合計	814	558	256	44864

*JSH、JSPHO および NHO の施設は重複を含む

人材育成事業

専門医認定制度

1) 専門医等取得状況 2019 年 8 月末日現在

専門医 4,101 名
 指導医 2,113 名
 血液研修施設 472 施設
 血液専門研修認定施設 134 施設
 血液専門研修教育施設 49 施設

2) 専門医認定試験

2019 年度 (第 29 回) 血液専門医認定試験

日時 2019 年 6 月 30 日 (日) 13:00～15:00

会場 京都烏丸コンベンションホール (京都市)

受験者数 211 名 (欠席 1 名) 合格者 182 名 ・ 不合格者 28 名 (合格率 86.25%)

3) 新専門医制度への対応

- ・「新血液専門医プログラム」の改訂
- ・研修施設認定基準の改訂
- ・内科系サブスペシャリティ領域専門に関するアンケートの実施
- ・血液専門医システム準備 WG において、症例登録システムの構築等を検討

教 育

1. 第12回「研修医（初期・後期）のための血液学セミナー」開催について

開催形態：日本血液学会の主催として実施

日時：令和元年7月6日（土）－7月7日（日）

＊ 7月5日（金）はサテライトイブニングプログラム

会場：大津プリンスホテル

対象：研修医（前期、後期を含める）+オブザーバー

参加人員：114名+17名（応募総数は158名）

講師・座長48名

講習時間・形態：

全体講義：レクチャー2コマ、ケーススタディー7コマ

グループスタディー：4コマ

モーニングレクチャー：2コマ

ランチョンセミナー：1コマ

一般参加費：27,000円（交通費、宿泊費サポートあり）

オブザーバー参加費：50,000円

＊参加者卒年（2019年14%、2018年42%、2017年35%）

＊一般参加満足度：86.9点（アンケート結果より）

2. 第9回若手臨床血液学セミナーについて（日本血液学会「協力」）

ノバルティス、協和発酵キリン、二社主催にて開催

日時：令和元年11月9日（土）－11月10日（日）

会場：赤坂インターシティコンファレンス

参加予定人員：138名（参加申込7月5日終了）

参加費用：11,000円

＊ 今回、免疫療法を追加。小児コースあり。

＊ 顕微鏡の貸出し中止のため検鏡実習は中止。

＊ その代わりに、タブレットを用いた形態学講義を設定。

3. 血液専門医テキスト改訂3版 作成

著者校正、全体の校正終了（2019年10月発刊予定）

＊ 専門医認定委員会との共同作業

＊ 価格：15,500円

普及啓発事業
広 報

- 1) 日本血液学会ニュース（メール便）定期便および臨時便の発行
 - ① 2019年度（平成30年9月～令和元年7月）の発行回数
定期便11回
臨時便23回：学術集会、JSH国際シンポジウム、専門医試験受験情報、研修医のための血液学セミナー、若手臨床血液学セミナー、MPN/MM観察研究、日本学術振興会賞、育志賞の募集案内、海外派遣プログラム参加者募集など
海外メール配信10回：海外会員入会案内、学術集会、JSH国際シンポジウム
 - ② 上記①以外のニュース便を配信
 - ・2018年9月：第6回定時社員総会のご案内（インターネットによる議決権行使）
 - ・2019年3月：第30回日本医学会総会 登録推進のお願い
 - ・2019年5月：日本血液学会研究助成事業 実施のご案内
 - ・2019年5月：システムサーバ移行のお知らせ
 - ③ 海外へのプロモーション
 - ・EHA, ASH Congressにて取得した海外研究者／関係者のEメールアドレス宛に、海外会員入会案内やJSH国際シンポジウムおよび学術集会の諸案内を配信
- 配信数:テキスト版・HTML版を合わせ6,979件(2019年7月号での会員宛配信実数)。昨年9月配信数(6,759件)より220件増加
- 2) 日本血液学会ホームページ（HP）
 - ・造血器腫瘍診療ガイドライン2018年版 WEB版を公開
 - ・専門研修認定施設の申請受付開始のお知らせ
 - ・学術集会抄録集アーカイブ 第80回を追加
 - ・海外会員申込ページの設定及び申込ページバナーの追加
 - ・学生、初期臨床研修医などの若手を対象としたコンテンツ充実のための検討
- 3) 日本血液学会各種委員会、役職などの英語表記の統一

賞 等

- 1) 日本血液学会賞：副賞 100 万円
北村 俊雄（東京大学医科学研究所 教授）
- 2) 奨励賞（第 80 回日本血液学会学術集会発表）：副賞各 30 万円 ※所属は発表当時
浅田 修平（東京大学医科学研究所 細胞療法分野）
A mutually reinforcing complex of mutant ASXL and BAP1 promotes myeloid leukemogenesis
安部 佳亮（亀田総合病院 血液腫瘍内科）
Diagnostic value of hyperintense lesion in the pons on MRI in patients with intravascular lymphoma
荒 隆英（北海道大学 血液内科）
Intestinal goblet-cell loss is a biomarker of GVHD and goblet growth factor IL-25 ameliorates GVHD
石井 慎一（神戸大学 血液内科学）
Erythroblasts facilitate progenitor mobilization via FGF23 production under neuronal control
小笠原 励起（北海道大学 血液内科）
GVHD targets R-Spondin3-producing lymphatic endothelial cells in the small intestine
迫田 哲平（九州大学大学院病態修復内科学講座）

Identification of a novel B-catenin activation mechanism mediated by TIM-3/Gal-9/HCK axis in AML-LSC

太良 史郎 (千葉大学 細胞分子医学)

Bcor insufficiency cooperates with Tet2 loss in the pathogenesis of myelodysplastic syndrome

中村 壮 (京都大学 iPS 細胞研究所)

Novel physico-chemical regulation mechanism enables to manufacture 10^{11} order platelets

宮内 将 (東京大学大学院 血液・腫瘍病態学)

Calcium/calmodulin dependent protein kinase 2 is identified as a therapeutic target of myelofibrosis

村上 紘一 (慶應義塾大学血液内科)

O-GlcNAcylation is critical for mitochondrial dynamics in hematopoietic stem cells

3) 日本白血病研究基金 研究助成 (学会推薦)

森田 聖美 (東京大学 血液・腫瘍内科)

4) 外郭団体各賞

- ・受賞：日本医学会総会奨励賞 (片岡 圭亮・国立がん研究センター 研究所分子腫瘍学分野)
- ・推薦：太田原豊一賞
- ・推薦募集：藤原賞、慶應医学賞、日本学術振興会賞、持田記念学術賞、日本学術振興会育志賞、日本医師会医学賞、日本医師会医学研究奨励賞、文部科学大臣表彰

倫理

学会が主体となつて行う臨床研究、調査事業に関する倫理審査の相談

1. 「初発急性前骨髄球性白血病 (APL) に対する三酸化ヒ素 (ATO, トリセノックス)」の二次調査 (アンケート) 実施 (研究代表者 筑波大学 横山泰久先生)
倫理委員会へ諮ることが望ましいため、主任研究者の横山先生へ、所属する筑波大学倫理委員会に審査が必要か否かを相談するように依頼。
2. 「慢性期慢性骨髄性白血病患者に対するチロシンキナーゼ阻害薬中止後の無治療寛解維持を検討する日本国内多施設共同観察研究」(研究代表者 秋田大学 高橋直人先生)
本件が特定臨床研究ではなく、一般臨床研究であることの確認を求められ、審査の結果、本研究は一般臨床研究であるとの結論にいたった。

COI

1. 規定、申告書の改訂および日血 HP 利益相反ページの更新
 - ・日本血液学会 講演会および機関誌における利益相反 (COI) の開示
 - ・HP の利益相反に関する文言
 - ・講演会などにおける COI 自己申告書
 - ・COI Self-Report Form in Conferences [英語版]
2. COI 自己申告の実施
 - ・本学会主催の学術集会、国際シンポジウム発表者 (共同演者を含む)
 - ・本学会機関誌 (臨床血液、IJH) で発表を行う著者全員
 - ・本学会役員 (理事長、理事、監事)、学術集会会長・次期会長、国際シンポジウム会長、次期国際シンポジウム会長、各種委員会のすべての委員長/副委員長、特定の委員会委員など)
3. 役員 COI 自己申告書について、COI 委員長による調査を実施